

## 【第 35 回大会個別発表抄録】

### きょうだい間のからかいが家族システムに与える影響

小岩 広平（東北大学大学院）・村田 奏美（岩手大学大学院）・奥野 雅子（岩手大学）

きょうだい間のコミュニケーションにおいて、からかいが起きることは多くある。きょうだい  
でからかい合うことで、きょうだいの仲が深まり、家族全体に肯定的な影響が広がることが考え  
られる。一方で、からかいによりきょうだいが対立し、家族全体の雰囲気が悪くなることもある。  
本研究では、きょうだい間のからかいと家族システムの関連を検討することを目的とした。

本研究は家族構造論(Minuchin, 1974)を基盤とする。Minuchin(1974)によると、家族は相互交  
流パターンを通じて作用する 1 つのシステムであり、家族システムは両親やきょうだいといった  
サブシステムから構成されている。さらに、サブシステム間の境界線が明瞭であると適応的な家  
族になる。一方、現代の日本の家族は、母子間の心理的距離が近い母子密着型であるため(池田,  
2003; 中谷ら, 2005)、サブシステムの結びつきの強化が求められる。

本研究では、きょうだい間の結びつきを強めるコミュニケーションとして、からかいを取り上  
げる。からかいとは、言語による攻撃性をユーモア的表現方法によって抑制するコミュニケーシ  
ョンである(牧, 2008)。からかいは親密化の機能を持つため(遠藤, 2007)、きょうだいの親密化に  
寄与する可能性がある。一方で、からかいは攻撃的ユーモアであるため、対立をまねく危険性も  
ある(Keltner et al., 1998)。さらに、きょうだい間が対立した場合、家族全体に影響を及ぼすた  
め、本研究では、①きょうだい間のからかいが家族システムに及ぼす影響、②家族システムを適  
応的に向かわせるからかいがどのようなものなのか、の二点について理論的に検討する。

きょうだい間のからかいが家族システムに及ぼす影響は、からかいにおいてどのようなメタメ  
ッセージが伝達されるか否かにより、大きく異なる。メタコミュニケーションは関係性を定義す  
る機能をもつため(Watzlawick, et al., 1967)、親和的なメタメッセージが伝達された場合、きよ  
うだい間の結びつきが強くなることが考えられる。その結果、境界線が明瞭になり、変化が家族  
全体に広がっていくことが予想される。一方、メタメッセージが伝わらなかった場合、からかいは  
攻撃として機能し、対立のきっかけとなる(遠藤, 2007)。きょうだいが対立した結果、親の介入  
につながったり、両親が巻き込まれたりして、境界線をあいまいにすることが推察される。

このように、からかいは家族に適応的な変化をもたらす場合と、境界線をあいまいにする場合  
がある。そのため、どのようなからかいが家族の適応的な変化につながるのかを明らかにするこ  
とが必要である。家族ライフサイクル論(岡堂, 1989)では、家族の発達により、求められるコミ  
ュニケーションが異なるとされている。一方で従来のからかい研究によると、成長とともに向社  
会的なからかいが増加し(Kowalski, 2000)、認知機能の発達に伴って向社会的に受け取られるた  
め(Keltner et al., 1998)、家族ライフサイクル論におけるステージ 4 以降のからかいが向社会的  
に働くことが予想される。

また、コミュニケーションの語用論(Watzlawick, et al., 1967)では、コミュニケーションが相  
補と相称に分類され、どちらかに偏ることが問題を引き起こすとされている。きょうだいのコミ  
ュニケーションとからかいはどちらも相補的なコミュニケーションである。そのため、兄・姉が  
弟・妹をからかうと、相補のエスカレーションにつながり、対立につながるものが予想される。  
一方で、弟・妹から兄・姉へのからかいは相補のエスカレーションの予防につながるものが予想  
されるため、弟・妹が兄・姉をからかうことが重要であると考えられる。